

答 辞

本日は、令和七年度琉球大学大学院修了式にあたり、博士前期課程、専門職学位課程、そして博士後期課程修了生を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。

喜納育江学長をはじめ、諸先生方ならびにご来賓の皆様のご臨席を賜り、このような盛大な修了式を挙行していただきましたことに、修了生を代表して心より御礼申し上げます。

顧みれば、私たちの大学院生活の中心は、真理を探求する研究活動にありました。私自身は、次世代通信システムの低消費電力化という課題に対し、「雑音をあえて活用する」という、従来とは異なるアプローチでの受信手法を研究してまいりました。思うような結果が出ず、暗中模索の日々もございましたが、理論と対峙し、新たな知見を見出すプロセスは、何物にも代えがたい貴重な経験となりました。

また、留学生や外国人客員研究員の方々との異文化交流、学会での学生座長としての運営、そしてオープンキャンパスでの研究紹介といった、研究室の壁を越えた活動も自身の人間的成長につながる貴重な経験となりました。これらの経験を通じて、専門性の深化とともに、多様な価値観を持つ人々と協調し、物事を成し遂げることの重要性を学びました。

研究活動において、私は指導教員である齋藤将人教授より、研究計画の立案からシステム設計、特性評価、論文執筆や研究発表に至るまで、未熟な私を一から丁寧かつ的確にご指導いただきました。また、研究室の仲間とは、日々の議論を通じて刺激を与え合い、学会発表の際には、互いの準備を支え合う中で、共に成長する喜びを分かち合うことができました。

こうした私自身の経験は、本日ここに集った修了生一人ひとりの歩みとも重なるものです。私たちが今日、修士課程や

博士課程という険しくも実りある道のりを無事に遂行できましたのは、熱心にご指導くださった先生方、苦楽を共にした研究室の仲間たち、そして何より、どんな時も変わらぬ愛情で私たちを励まし、支えてくれた家族や多くの方々の存在があったからこそだと確信しております。修了生一同、皆様の深い慈しみとご支援に対し、ここに改めて心より深く感謝申し上げます。

四月から、私たちはそれぞれの新しい道を歩み始めます。生成 AI の急速な発展に象徴されるように、社会の姿が大きく変わり続ける時代ではありますが、琉球大学という多様性に満ちた地で得た学びを胸に、私たちは社会の発展に貢献していけるよう日々精進してまいります。

結びに、琉球大学のさらなる飛躍と、本日ご臨席を賜りました皆様、またこれまで私たちを支えてくださったすべての皆様のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、答辞とさせていただきます。

令和八年三月二十四日

修了生代表

理工学研究科 工学専攻

電子システム・デバイスプログラム

坂山秀明